

The background of the slide is a light gray gradient. On the right side, there are several realistic water droplets of various sizes, some overlapping, creating a sense of depth and texture. The droplets have highlights and shadows, giving them a three-dimensional appearance.

世田谷区 事例MANGA方式を活用した 高齢者虐待予防研修 ～多職種協働技法の習得を目指して～

立正大学 土屋典子



I はじめに

多職種協働について

多職種協働の難しさ

多職種で理解しあうために

@立正大学土屋典子

1. 多職種協働が必要な背景

(1)「統合ケア」/「地域包括ケア」

高齢者増加 ⇒ 慢性疾患患者増大 ⇒ 地域における複数種類の医療サービス・介護サービスの切れ目のない一体的提供の必要性

(2)「複合問題事例」

格差社会の拡大、家族規模・機能の変化、制度・サービスの分断化等

⇒ 「複合問題事例」（いわゆる「支援困難事例」と言われる分野横断的ニーズをもつ事例）の増加

⇒ 分野横断的/包括的・継続的支援提供の必要性

※複合的な課題の中で生きる利用者の暮らしを支えるためには、多機関協働がデフォルト（標準）に。

2. 多職種協働の難しさ

①複雑な課題をもつ事例のそもそものしんどさ群

01

②支援者の所属する組織文化の違い群

02

③支援者の世代の違い・個性の違い群

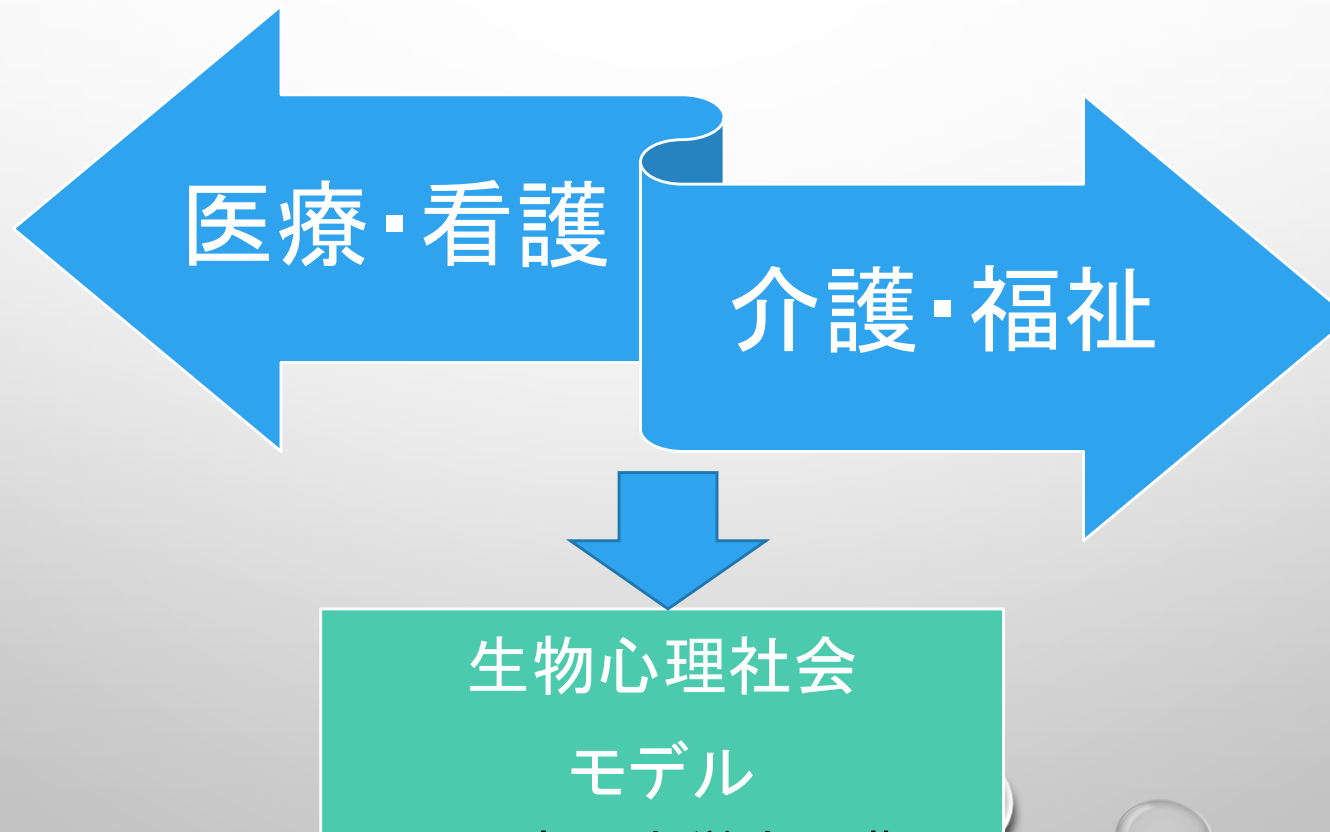
03

④専門性の違い

つとめの大切さ

@立正大学土屋典子

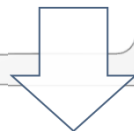
3. 多職種で理解しあうために 共通基盤の必要性



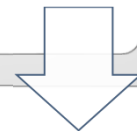
@立正大学土屋典子

本日の流れ

I 生物心理社会モデルの理解



II 多職種協働技法の習得

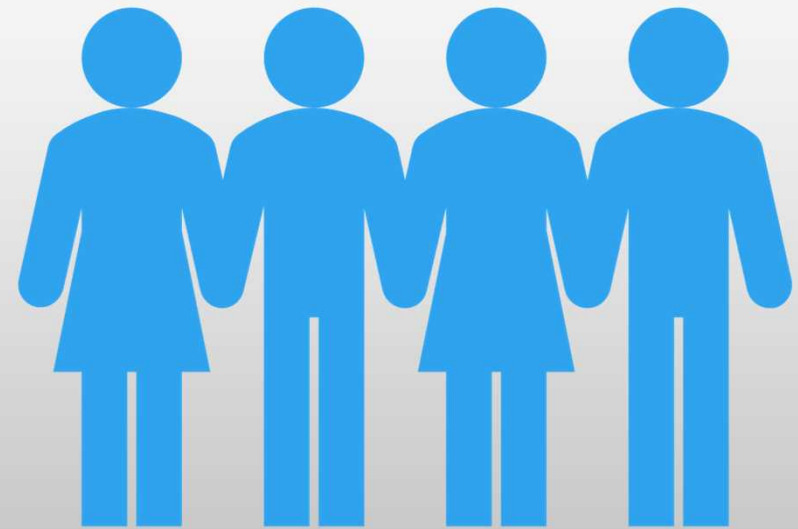


III 高齢者虐待予防スキルの向上

事例漫
画をもと
に学び
を深め
ます

@立正大学土屋典子

Ⅱ 生物心理社会モデル



@立正大学土屋典子

1. 生物心理社会モデルとはなにか

ENGEL (1977)

- 生物医学モデル一辺倒の医学を批判
- 生物心理社会モデル (bio-psycho-social model)
- を提唱

生物心理社会モデルとは

- 純生物医学的な疾患 (disease) としてではなく、病い (illness)をもっと大きな枠組みでとらえる
- 生物医学的な理解は必要。同時に、人間としての側面、関わる他人との関係、家族、コミュニティといった側面も理解していこう、これらは互いに影響しあっており、それがどのように患者の疾患、症状、感情、生活に反映されているか見ていこうとする概念

@立正大学土屋典子

2. システム理論としての生物心理社会モデルの理解

システム理論

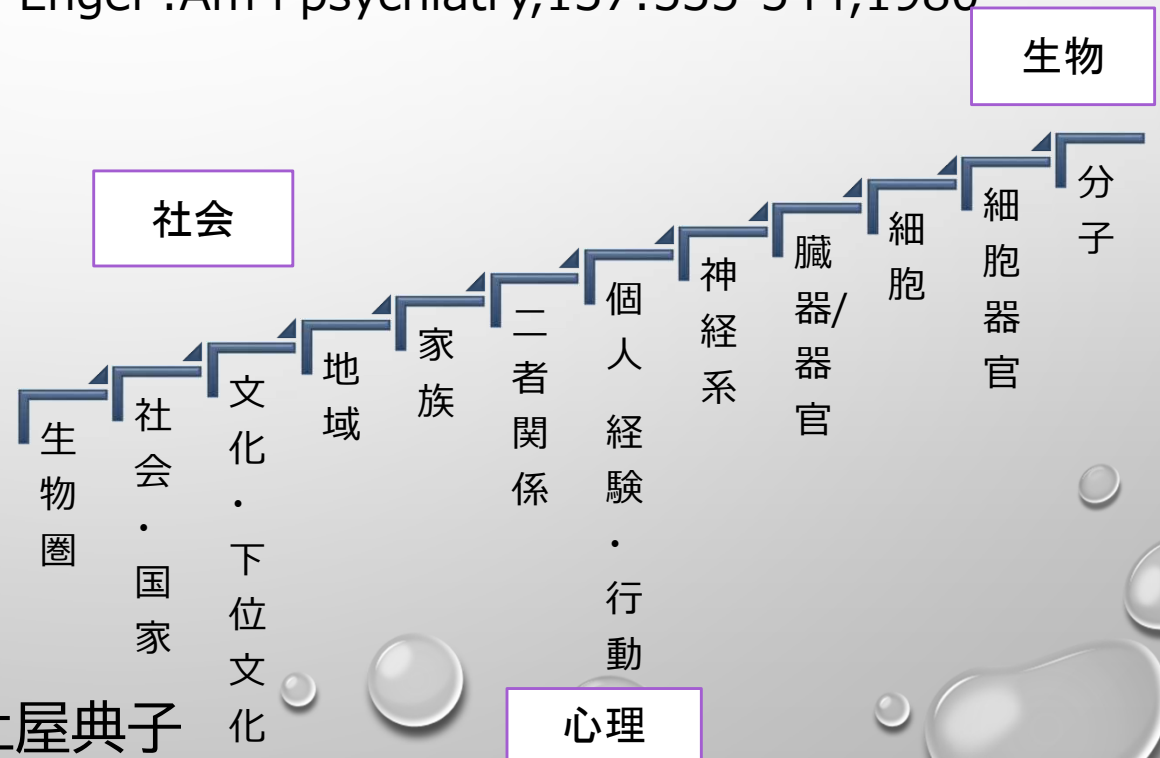
システム = 互いに作用しあう多数の要素で構成され、全体として秩序をなしているもの

小さなシステムが階層をなし、各階層が互いに影響を及ぼし合いながら大きなシステムを構成する概念

→一つが変われば他の階層にも変化が現れ、全体として新たなバランスが生まれる

システムの階層

Engel : Am i psychiatry, 137:535-544, 1980



@立正大学土屋典子

3. 研修医、レジデントも困っている

複雑事例への対応が困難な理由

困難 1

- ・ 複雑であることを、どのように分析・記述し、伝え、共有すればよいのかわからない

困難 2

- ・ 一人で事例をマネジメントするのは、精神的にも時間的にも難しい

困難 3

- ・ 複雑な問題を抱える患者やその家族とのコミュニケーションがうまくいかない

困難 4

- ・ 複雑な事例をマネジメントしていく上で助けになる地域のリソースがわからない

4. 生物心理社会モデルの6つのステップ

FRANKEL(2003)をもとに筆者作成

ステップ1	クライアントの物語と生活を取り巻く状況を明らかにする
ステップ2	クライアントをケアする上で重要と思われる生物・心理・社会的要因を統合する(あらゆる情報を見渡す)
ステップ3	ケアを行う際の関係者間の関係性が重要であることを確認する 愛情と尊敬をもったクライアントへの関心
ステップ4	専門職者が自分自身について知っている。自分もシステムの一部であることを自覚する。 自分の感情、行動はクライアントに影響を及ぼすことを知る
ステップ5	どの領域に焦点を当てて取り組むべきか優先順位を決める 自分一人ではなく、多くの関係者で検討する 優先順位は、重要性、緊急性、実行可能性を検討
ステップ6	多次元的なケアを行う。組織内・外の多職種連携、地域のインフォーマルサポートを活用する

@立正大学土屋典子

5. 生物・ 心理・社会モ デルによる、 「新しい多職 種協働技 法」

①クライアントの物語と 生活環境を聴く

- 開かれた質問、促し、相槌
- 家族、生活環境、仕事についての映像を思い浮かべて「問いかける」

②心身両面からのアセ スメント

- 身体疾患、精神疾患のアセスメント
- 症状の心身医学的理解

③愛情と尊敬をもったク ライアントへの関心

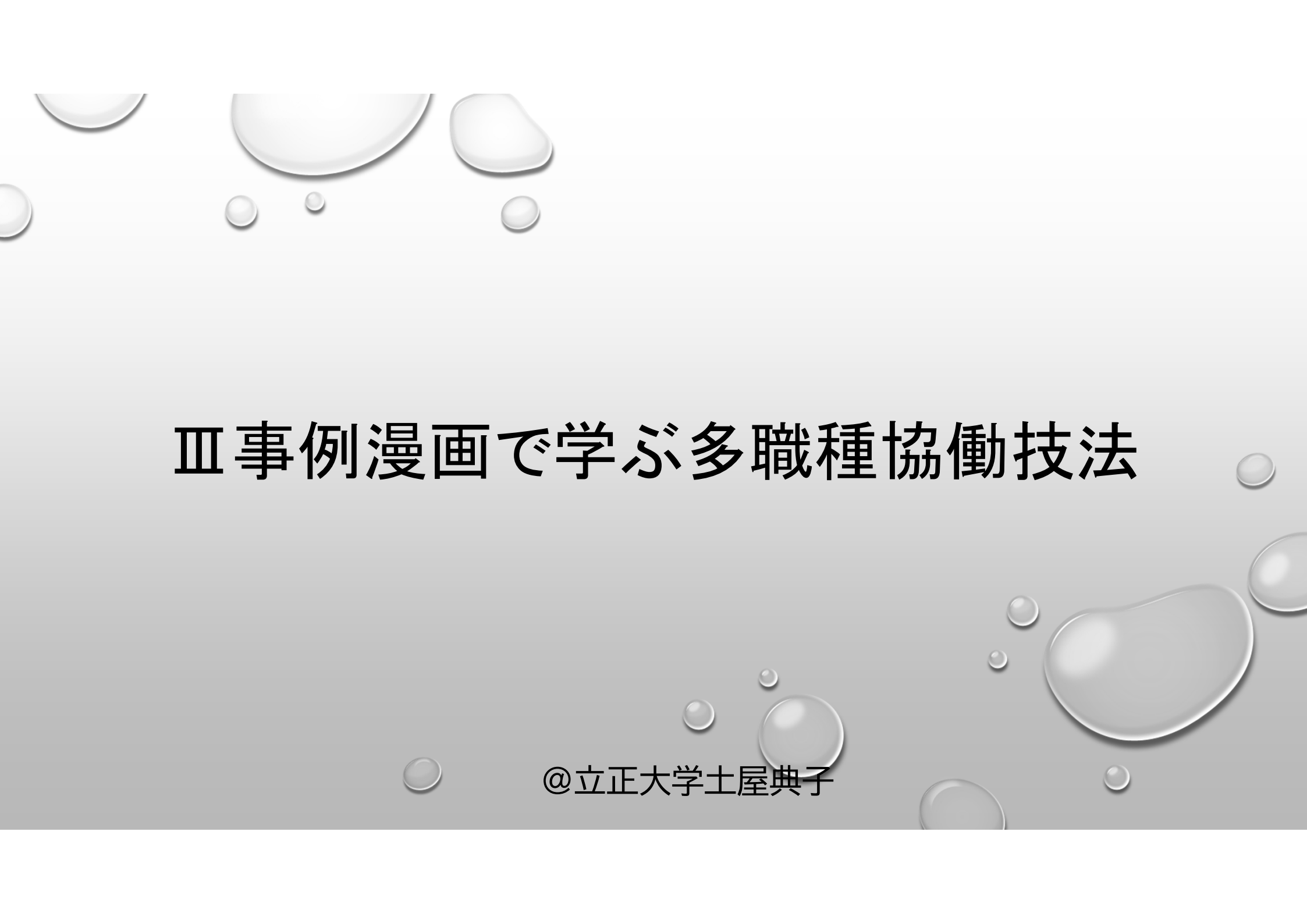
- 苦痛、苦悩への共感的理解
- 行動パターンへの心理、社会的理解

④多職種協働スキル

- 多職種との積極的コミュニケーション
- 情報共有、意思決定の共有、役割分担、謙虚さ

横谷(2017)p75を参考に土屋加筆

@立正大学土屋典子

The background of the slide is a light gray gradient. It is decorated with numerous realistic water droplets of various sizes. Some droplets are at the top, some are in the middle, and a larger cluster is on the right side. The droplets have highlights and shadows, giving them a three-dimensional appearance.

Ⅲ事例漫画で学ぶ多職種協働技法

@立正大学土屋典子

生物・心理・ 社会モデルに よる、「新しい 多職種協働 技法」

ここです

①クライアントの物語と 生活環境を聴く

- 開かれた質問、促し、相槌
- 家族、生活環境、仕事についての映像を思い浮かべて「問いかける」

②心身両面からのアセスメント

- 身体疾患、精神疾患のアセスメント
- 症状の心身医学的理解

③愛情と尊敬をもったクライアントへの関心

- 苦痛、苦悩への共感的理解
- 行動パターンへの心理、社会的理解

④多職種協働スキル

- 多職種との積極的コミュニケーション
- 情報共有、意思決定の共有、役割分担、謙虚さ

横谷(2017)p75を参考に土屋加筆

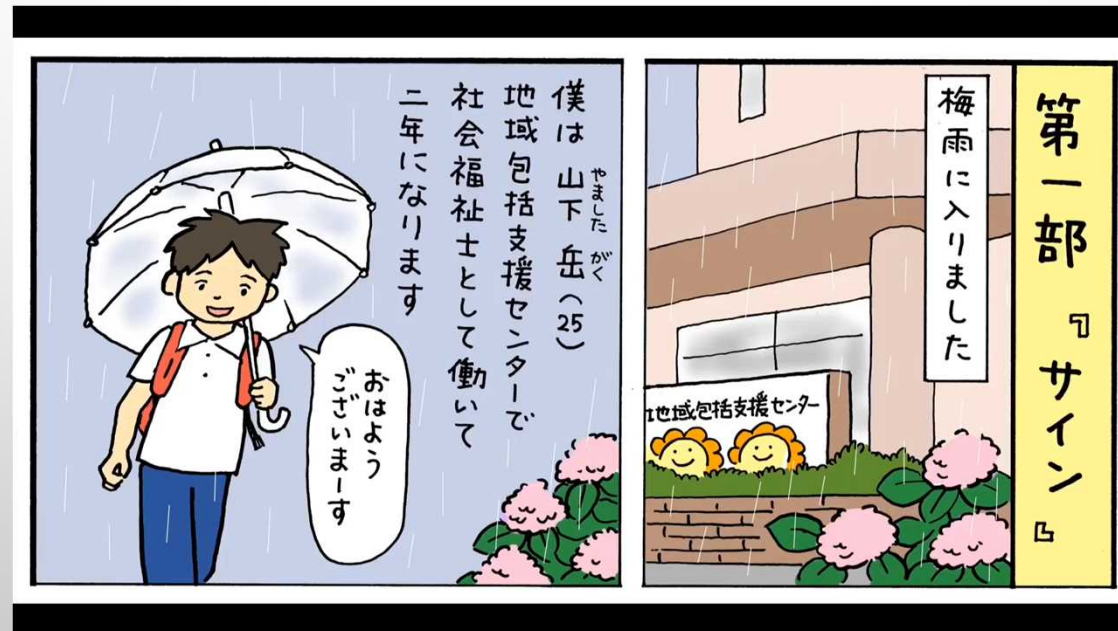
@立正大学土屋典子

1. クライアントの物語と 生活を取り巻く状況を聴く

相手の物語を聴く

@立正大学土屋典子

今日活用する事例漫画を見てみましょう



@立正大学土屋典子

1) クライアントの物語と生活を取り巻く状況の聴き方

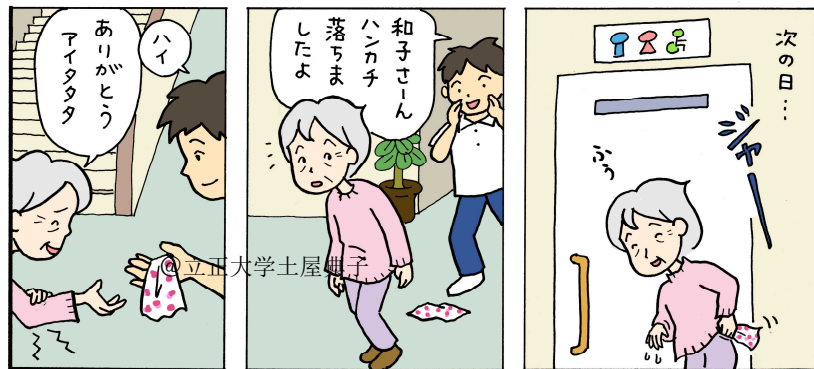
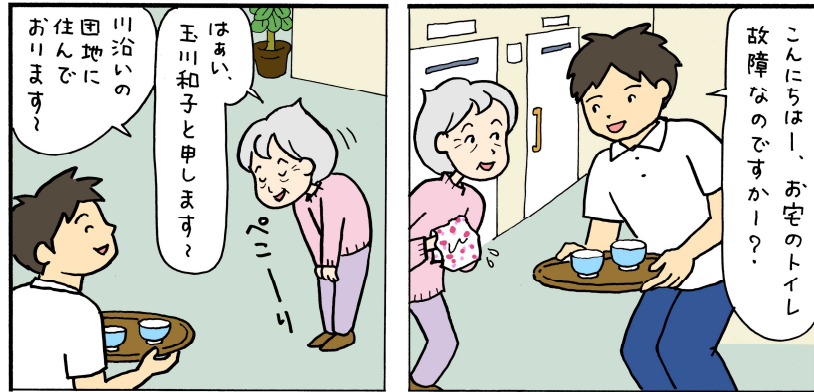
いつ? いつでも。(勤務中はいつでも)

どこで? どこでも (生活場面面接)

どのような方法で? 映像を描きながら、理解的に問いかけながら

どのくらいの長さで? フレキシブルに選択。ちょこちょこ (単純接触効果) orじっくりと

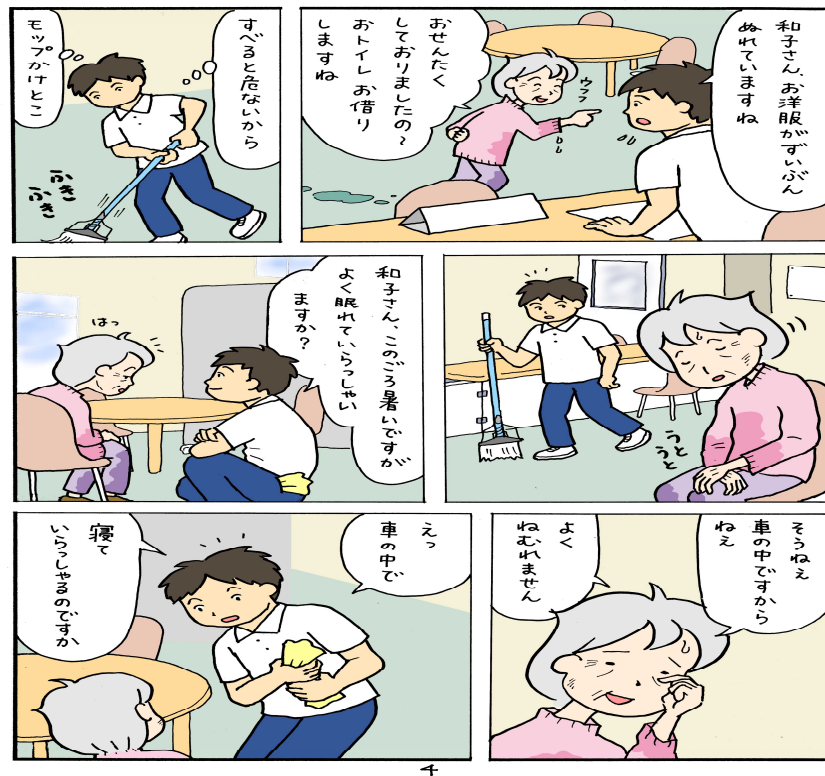
@立正大学土屋典子



いつ、どこで (生活場面面接)

- ・玄関先で
- ・お茶をお出ししながら
- ・お見送りしながら

どのように 映像を描きながら相手の話を聴く＝相手と同じ景色を見る



★「知らない姿勢」をもつ

- Not Knowing
Anderson, H, Goolishian, H

「専門家は知らない姿勢をとる方法を身につけなければならない」

★映像を描くことによって、「知らない」ことに気付ける。そこを質問する。そのプロセスが相手への正確な理解を深め、相手に「わかってもらえた」感をもたらす。

★語られていないことへの着目

- 語らないことの尊重
- 生物心理社会モデルの枠組みからこちらから問いかけてみることも一つ

@立正大学土屋典子

2) チェックポイント

- 1 クライエントの物語と、生活を取り巻く状況を聴くこととはどういうことか理解できましたか
- 2 映像を描く技法によって、相手の物語をより深く聴くことが理解できましたか？
- 3 事例漫画の中で、玉川和子さんの物語を聴く際に、山下社会福祉士が工夫した点について考えてみましょう。

1)

2)

3)

生物・心理・ 社会モデルに よる、「これか らの多職種 協働技法」

ここです

①クライアントの物語と 生活環境を聴く

- 開かれた質問、促し、相槌
- 家族、生活環境、仕事についての映像を思い浮かべて「問いかける」

②心身両面からのアセ スメント

- 身体疾患、精神疾患のアセスメント
- 症状の心身医学的理解

③愛情と尊敬をもったク ライアントへの関心

- 苦痛、苦悩への共感的理解
- 行動パターンへの心理、社会的理解

④多職種協働スキル

- 多職種との積極的コミュニケーション
- 情報共有、意思決定の共有、役割分担、謙虚さ

横谷(2017)p75を参考に土屋加筆

@立正大学土屋典子

2. 心身両面からのアセスメント

身体疾患、精神疾患のアセスメント
症状の心身医学的理解

@立正大学土屋典子

1) 生物・心理・社会の各側面の例

生物的側面	身体状況 身体機能 診断名、併存疾患 病理学的変化(炎症、感染、腫瘍、外傷など) 年齢、性別、遺伝因子	併存している場合がある	すべての領域を見渡す
心理的側面	精神症状(不安、抑うつ、妄想) 感情(安心、幸福、親しみ、満足、快) 感情(不安、心配、恐怖、悲しみ、怒り、嫌悪、苦しみ、後悔、空虚) 睡眠、食欲、倦怠感 ストレス、ストレッサー(ストレス源)、ストレスコーピング(ストレスへの対処方法) 信念、自己効力感、コントロール感		
社会的側面	家族メンバーの構成、各々の健康状態、役割 家族の中、職場、学校、地域社会での、役割、責任、成果、自由さ、人間関係など 社会的サポート(フォーマルサポート、インフォーマルサポート、患者のもつネットワーク・ピアグループ、ソーシャルサポートネットワーク) 経済的制約、社会制度的制約 文化人類学的特性、所属する集団、年齢、ジェンダーによる特性		

横谷(2017)p73を参考に土屋加筆
@立正大学土屋典子

生物心理社会モデルによるアセスメント

熱中症、エコノミー症候群が心配

生物的

車中泊？なぜかしら

心理的

社会的

家に居づらい理由が？



@立正大学土屋典子

2) チェックポイント

- 心身両面からのアセスメントについて理解できましたか？
- 生物的側面、心理的側面、社会的側面はどのような内容でしたか
- 事例漫画の中で、それぞれの専門職はどのような側面からアセスメントをしていたのでしょうか。
印象に残っていることを、あげてみて下さい。

センター長

社会福祉士

保健師

主任ケアマネ

@立正大学土屋典子

生物・心理・ 社会モデルに よる、「これか らの多職種 協働技法」

ここです

①クライアントの物語と 生活環境を聴く

- ・ 開かれた質問、促し、相槌
- ・ 家族、生活環境、仕事についての映像を思い浮かべて「問いかける」

②心身両面からのアセ スメント

- ・ 身体疾患、精神疾患のアセスメント
- ・ 症状の心身医学的理解

③愛情と尊敬をもったク ライアントへの関心

- ・ 苦痛、苦悩への共感的理解
- ・ 行動パターンへの心理、社会的理解

④多職種協働スキル

- ・ 多職種との積極的コミュニケーション
- ・ 情報共有、意思決定の共有、役割分担、謙虚さ

横谷(2017) p.75を参考に土屋加筆
@立正大学土屋典子

生物・心理・ 社会モデルに よる、「これか らの多職種 協働技法」

ここです

①クライアントの物語と 生活環境を聴く

- ・ 開かれた質問、促し、相槌
- ・ 家族、生活環境、仕事についての映像を思い浮かべて「問いかける」

②心身両面からのアセ スメント

- ・ 身体疾患、精神疾患のアセスメント
- ・ 症状の心身医学的理解

③愛情と尊敬をもったク ライアントへの関心

- ・ 苦痛、苦悩への共感的理解
- ・ 行動パターンへの心理、社会的理解

④多職種協働スキル

- ・ 多職種との積極的コミュニケーション
- ・ 情報共有、意思決定の共有、役割分担、謙虚さ

横谷(2017) p.75を参考に土屋加筆
@立正大学土屋典子

3.愛情と尊敬をもったクライアントへの関心

苦痛、苦悩への共感的理解

行動パターンへの心理、社会的理解

@立正大学土屋典子

事例の続きの映像を見てみましょう



@立正大学土屋典子



1) 愛情と尊敬をもってクライアントへの関心を持つとは？

苦痛、苦悩への共感的理解の方法・・・想像力を働かせる
ネガティブ情報→強味、力、その人らしさを知るための情報へ

1 現在のつながりに着目して

- ・ 自分－家族－友人－支援者など
- ・ エコマップ面接
- ・ ジェノグラム面接

2 生活歴に着目して

- ・ 過去－現在－未来
- ・ ライフヒストリー面接

@立正大学土屋典子

現在のつながり

- 本人の言葉
- 信頼できる他者の言葉



7



9

@立正大学土屋典子

愛情と尊敬をもったクライアントへの関心とは



愛情と尊敬を もったクライアント への関心とは

- そしてこのように、包括的に情報を集めることによって情報の偏りを防ぎ、事実の正確な理解に努めようとしています
- こうした小さな努力の積み重ねが、尊敬をもったクライアントへの関心といえるのではないのでしょうか



@立正大学土屋典子



個人ワーク 1 (5分)

テーマ：ここまでの情報から、玉川さんのエコマップ、ジェノグラムを作成しよう

- ジェノグラムとエコマップ

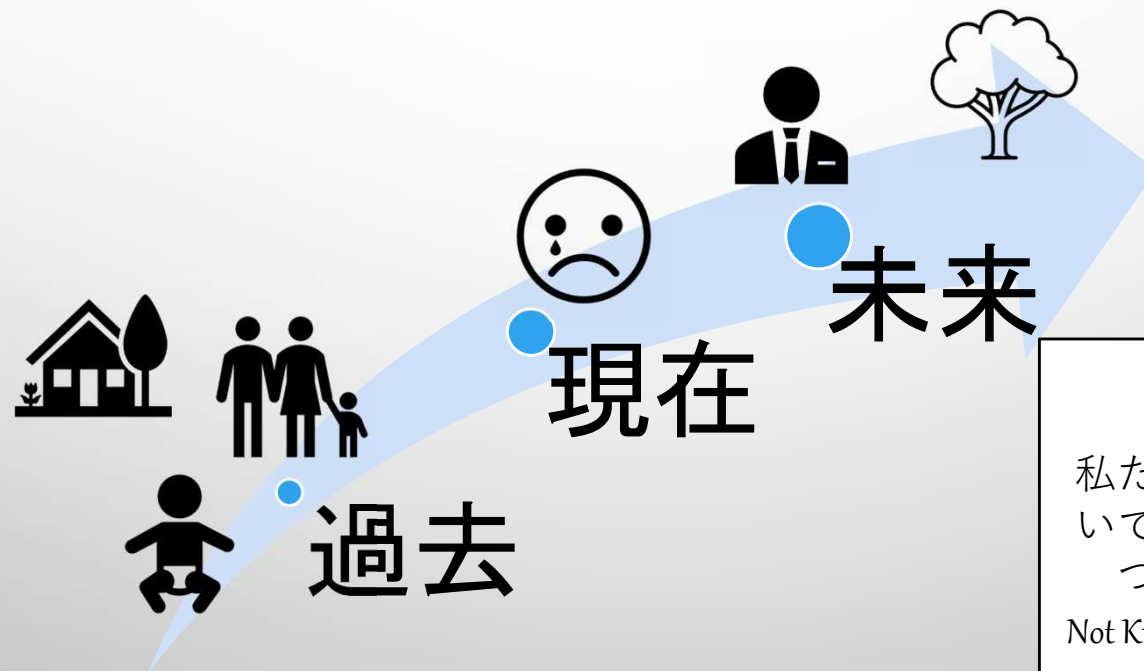


本人
80歳

3) 生活歴に着目する意味

@立正大学土屋典子

「その人」をとらえるためには、その人の今、過去、未来を知ることが大事



私たちは、目の前のその人について、何もしらない、ことに気づくことからスタートする

Not Knowing Anderson, H, Goolishian, H

@立正大学土屋典子

何のために過去の情報を集めるのだろう？

1 なぜ過去の生活歴を理解する必要があるのか

2 過去の生活歴を知ることが、どのように現在の支援に役立つか

考えてみよう！

何のために過去の情報を集めるのでしょうか？（DVDをとめて3分間考えてみて下さい）

あなたの答え

@立正大学土屋典子

何のために過去の情報を集めるのだろう？

1 なぜ過去の生活歴を理解する必要があるのか

2 過去の生活歴を知ることが、どのように現在の支援に役立つか

玉川さんの過去とは

- 民生委員さんから伺った玉川家の過去の歴史をふりかえってみましょう

進さん

誠さん

このエピソードからわかること



@立正大学土屋典子



4) 和子さんの過去の歴史を教えてください

@立正大学土屋典子

玉川家の生活史

	1935	1940	1945	1950	1955	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020
実	0歳	5歳	10歳	15歳	20歳	25歳	30歳	35歳	40歳	45歳	50歳	55歳	60歳	65歳	70歳	75歳	80歳	他界
	新潟県生まれ	軍国少年	終戦時小学校4年生	高校卒業後に上京。上野の精養軒で習い。皿洗い、ウェ이터	厨房に入ってもらえる	コンソメスープを任せてもらえる	料理を作らせてもらえる	オーナーの紹介で二子玉の洋食屋で働く。1983年53歳で独立の話がでるが、進の進学費用のことで躊躇していたところでバブルがはじけ、話はなくなる				長年勤めた洋食屋も閉店してしまう	気を取り直して大手チェーン店で働く		退職	妻の介護を始める		
和子	0歳	5歳	10歳	15歳	20歳	25歳	30歳	35歳	40歳	45歳	50歳	55歳	60歳	65歳	70歳	75歳	80歳	
	福島県生まれ			中学卒業後東京に上京	精養軒でウェイトレス	実さんと結婚	主婦	一番幸せだった時期	友人の紹介でパートに出る				認知症症状が出現				せん妄？	
進	0歳	5歳	10歳	15歳	20歳	25歳	30歳	35歳	40歳	45歳	50歳	55歳	60歳	65歳	70歳	75歳	80歳	
							0歳	5歳	10歳	15歳	20歳	25歳	30歳	35歳	40歳	45歳	50歳	
								お父さんのブイベースが好きだった		高校卒業後、私大文学部に進む、カメラが趣味。新聞部。順調な大学生活だった	が...	入退院を繰り返す	入退院を繰り返す	引きこもり生活	引きこもり生活	引きこもり生活	母の世話	
誠	0歳	5歳	10歳	15歳	20歳	25歳	30歳	35歳	40歳	45歳	50歳	55歳	60歳	65歳	70歳	75歳	80歳	
								0歳	5歳	10歳	15歳	20歳	25歳	30歳	35歳	40歳	45歳	
												大学は秋田の大学へ		結婚				
備考	0歳	5歳	10歳	15歳	20歳	25歳	30歳	35歳	40歳	45歳	50歳	55歳	60歳	65歳	70歳	75歳	80歳	
			終戦			高度経済成長1955～1973					バブル期		介護保険制度施行			リーマンショック		

@立正大学土屋典子

個人ワーク2（5分）

和子さん35歳の時のエコマップ、ジェノグラムを作成して
これまでの情報を整理してみましょう

- ジェノグラムとエコマップ



本人
30歳

個人ワーク3（5分）

和子さん 55歳の時のエコマップ、ジェノグラムを作成して
これまでの情報を整理してみましょう

- ジェノグラムとエコマップ



本人
50歳

個人ワーク4 (5分)

30歳と50歳の和子さんのエコマップを比べてどんなことに気が付くだろう

○気が付いたこと

和子さんは困難に対しどのように対処してきましたか

和子さんはどのような行動パターンをお持ちですか？

和子さんの強みはなんでしょう？

個人ワーク5（5分）

テーマ：共感的理解について

ここまで、玉川家の過去の歴史をして、
和子さん、進さんに対する印象は何か
かわりましたか。二人の苦悩に対して、
何か共感的に理解できたことはあります
か？



玉川家の生活史 強みに焦点を当てて

	1935	1940	1945	1950	1955	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020
実	0歳	5歳	10歳	15歳	20歳	25歳	30歳	35歳	40歳	45歳	50歳	55歳	60歳	65歳	70歳	75歳	80歳他界	
和子		0歳	5歳	10歳	15歳	20歳	25歳	30歳	35歳	40歳	45歳	50歳	55歳	60歳	65歳	70歳	75歳	80歳
進																		
誠																		
備考																		

新潟県生まれ

軍国少年

終戦時小学校4年生

高校卒業後に上京。上野の精養軒で見習い。皿洗い、ウエイター

厨房に入ってもらえる

コンソメスープを任せてもらえる

料理を作らせてもらえる

オーナーの紹介で二子玉の洋食屋で働く。長年勤め1983年53歳で独立の話ができるが、進んだ洋食屋も閉店してしまう

学費用のことで躊躇していたところでお金になる

息子が心配しながらも経済力確保

大手チェーン店で仕事を見つける。働く

退職

妻の介護を始める

0歳

福島県生まれ

中学卒業後東京に上京

精養軒でウエイレス

実さんと結婚

主婦

一番幸せだった時期

友人の紹介でパートに出る。

認知症の状況は？

認知症症状が出現

車の中で暮らす

5歳

お父さんのブイベースが好きだった

家族としての幸せな思い出

10歳

高校卒業後、私大文学部に進む。カメラ趣味。新聞部。順調な大学生活だった

趣味のある学生時代

15歳

入退院を繰り返す

統合失調症

20歳

入退院を繰り返す

引きこもり生活

25歳

引きこもり生活

30歳

引きこもり生活

35歳

引きこもり生活

40歳

引きこもり生活

45歳

引きこもり生活

せん娘？

0歳

大学は秋田の大学

希望の工学部に進む

10歳

バブル期

15歳

介護保険制度施行

20歳

結婚

25歳

リーマンショック

30歳

リーマンショック

35歳

リーマンショック

40歳

リーマンショック

45歳

リーマンショック

社会からの影響

高度経済成長1955～1973

バブル期

介護保険制度施行

リーマンショック

@立正大学土屋典子

5) チェックポイント

愛情と尊敬をもったクライアントへの関心について理解できましたか？

1 ジェノグラムを作成することで、玉川さん家族のことが理解できましたか？

2 玉川家の生活歴を知り、想像力を働かせることで、和子さん、息子さんに対して、どのような理解が生まれましたか？

3 ネガティブ情報ではなく、強み、力、その人らしさを知るための方法について理解できましたか？

@立正大学土屋典子

生物・心理・ 社会モデルに よる、「これか らの多職種 協働技法」

ここです

①クライアントの物語と 生活環境を聴く

- 開かれた質問、促し、相槌
- 家族、生活環境、仕事についての映像を思い浮かべて「問いかける」

②心身両面からのアセ スメント

- 身体疾患、精神疾患のアセスメント
- 症状の心身医学的理解

③愛情と尊敬をもったク ライアントへの関心

- 苦痛、苦悩への共感的理解
- 行動パターンへの心理、社会的理解

④多職種協働スキル

- 多職種との積極的コミュニケーション
- 情報共有、意思決定の共有、役割分担、謙虚さ

横谷(2017)p75を参考に土屋加筆

@立正大学土屋典子

4. 多職種協働

地域の包括的ケアシステムの理解

多職種との積極的コミュニケーション

情報共有、意思決定の共有、役割分担、謙虚さ

@立正大学土屋典子

1) 多職種協働のポイント

タスクワーク

情報共有
方向性一致
役割分担

コミュニケーション

心理的安全性



スムーズな情報共有

@立正大学土屋典子

2) 多職種協働がめざすイメージ

- ・ バレーボールから玉入れへ



一つのボール(提案)を入れて、誰がやるか一つずつ審議する=対立モードになりやすい



小さなボール(提案)を思いつく限り並べてから、時間内にやれそうなものを各自が拾い上げる

@立正大学土屋典子

3) スムーズな多職種協働のベースにあるもの

率直に意見を言う

- 個人個人が誠実な会話をする。(積極的に自分から質問、意見求める、失敗についてしっかり話す。対話する)

協働する

- 協力する、尊敬しあう、目標、情報を共有する、支援しあう。
パワーのある人ほど、ワンダウンポジション!
- 皆に情報を伝える

試みる

- 一度でうまくいくことを期待しない。失敗からも学び、チャレンジする。

省察する

- 目標に対しての結果を検討し、評価する。どうしたら、次にうまくいくか、目標を見据え、しっかり考える。常に微調整する

@立正大学土屋典子

4) 事例をみてふりかえり

- 事例漫画の中で、地域包括支援センターのメンバーの連携の様子を思い出してみてください。
- あなたがいいなと思った場面を1つ挙げてみてください
- ()の場面
- その場面は、あなたの仕事でも実践できそうですか？
- 実践するために必要な第一歩は何だと思いますか？

@立正大学土屋典子



聴いてもらえる感覚がある
一緒に働いて楽しい
あの人はきっとこう動いてくれる
だろうと見通しが持てる

正確な情報共有
ゴールのすり合わせ
公平な役割分担

愛情と尊敬をもった利用者への
理解

6) 連携できる・協働感覚があるときの特徴

@立正大学土屋典子

エンディング



@立正大学土屋典子

V おわりににかえて
多職種協働のために、明日から活用
できるヒントはありましたか？

私が明日からできること

@立正大学土屋典子

ご清聴ありがとうございました
アンケートにご協力ください

@立正大学土屋典子



参考文献

横谷省治「生物心理社会モデル」『日本プライマリ・ケア連合会基本研修ハンドブック』日本プライマリ・ケア連合学会編 2017

藤沼康樹「認知症や経済問題などが絡む複雑困難事例への対応と臨床教育/臨床研究」心身医学,55:1025-1033, 2015

Engel G The need for a new medical model:A challenge for biomedicine,Science,196 :129-136

Frankel RM The Biopsychosocial Approach:Past,present,future, Unibersity of Rochester Press. Rochester 2003

@立正大学土屋典子